

ボランティア精神の源を訪ねて...⑨
こんぴらさんの神馬



琴刀比羅宮禰宜
琴陵 泰裕氏

新年あけましておめでとうございます。

平成二十六年の干支は甲午(きのえうま)。甲午は六十年を一周期とする干支の三十一番目にあたります。マラソンで例えるならちょうど折り返し地点にあたりますね。

去年は皇室の御祖神たる伊勢神宮の二十年に一度の「式年遷宮」、そして金刀比羅宮とも所縁の深い出雲大社の六十年に一度の「平成の大遷宮」と日本を代表する二つの社のお社の遷宮がお仕えされました。

遷宮の本義は「常若(とこわか)」です。神さまのお住まいであるお社を新しくすることによって、神さまのお力が清新に若々しく蘇られ、おかげを頂戴するわたしたちもその恩恵にあずかるという考えです。

平成二十六年は、遷宮後はじめての年です。我々も、そして我が国日本もターニングポイントを迎えることになるでしょう。心機一転、物事がよりいっそう良い方向へ良い方向へと進む事を願います。また皆さまにはより実りあるすばらしい一年をお過ごしなられますようお祈り申し上げます。

さて、話が逸れましたが、先ほどお話したように本年の干支は甲午。午は動物の馬に通じることから、今回はこんぴらさんの馬について紹介したいと思います。

こんぴらさんの石段四百二十九段目、銅の鳥居を潜り抜けると、左側に少し開けた広場があります。広場の中央には大きなクスノキがあり、その奥に「御厩(みうまや)」と呼ばれる建物がございます。その御厩からひょっこり首を出し、つぶらな黒い瞳で参拝者をじっと見つめているのが、神馬「月琴(げっきん)」号です。「神馬」は神さまの乗り物として社に奉納された馬のことです。

「神馬」の歴史は古く、奈良時代から祈願のため社に馬を奉納するならわしがあつたようです。このかわいらしい白馬の月琴は、平成二十年九月に奉納されました。奉納者は高松市在住の崇敬者篠原操様です。名前の由来は、月毛であること、アラブ系の血筋を引いてエキゾチックであることから、中国の古い楽器になぞらえて命名されました。平成十七年四月二十一日、北海道帯広産れの若駒です。

こんぴらさんの神馬は、十月十日、一年に一度の例大祭にあたり、金刀比羅大神様の御神輿の行列に随伴します。暗夜をきらびやかな宝珠を鞍に背負い、口取りにひかれて歩く様は、月毛の毛並も相まってとても神秘的です。また奉拝の皆様には「かわいい〜」「がんばって〜」と大人気です。翌十一日には、御神輿の滞在先、行宮(あんぐう)の南神苑神事場にて献馬式が執り行われます。おめかしをした月琴が斎場を一巡し、金刀比羅大神様にお目通りをする儀式です。月琴は最後に、恭しく頭を下げ、斎場を後にします。

このように、こんぴらさんのお祭りになくてはならない神馬「月琴」。このこんぴらさんの愛すべきキャラクターを今後も大事に大事にお世話していきたいと思ひます。

お参りの際には、ぜひとも御厩に足をお運びください。



月琴号(御厩で)



馬場で運動



例大祭の行列で



鞍の上に宝珠



献馬式